

第 22 回テニスの集い (4 月 20 日)

関 賢治(2 組)

またひとり 友去り逝きて 桜舞う

葉桜に囲まれたテニスコートに何故か桜の花びらが散る中で第 22 回同期テニスの集いが開催された。

テニスの集いの再開に当たり布施修一郎会長(6 組)の挨拶の後、関東での初回をさいたま市岩槻で開催した時の幹事で今年 3 月に急逝した池田恵一君(7 組)の冥福を祈り黙禱後試合を開始した。

上田での還暦の会を機にスタートしたテニスの集いも、古稀を熱海市の初島エクシブで祝おうとしていたが布施君の手術後ということで中止となり、更に 2019 年暮れからのコロナ禍が予想もしない事態となり中断が続き、このまま自然消滅かと危惧していた。

そんな中、今年に入り宮澤憲一君(10 組)より開催の要請、平日なら木曜日は布施君が休診との情報を基に 4 月 20 日(木)昼前、宮澤君、布施君に原田義則君(3 組)、若柳直人君(4 組)、内堀信君(6 組)、佐藤徹郎君(7 組)、関の 7 名が埼玉県 JR 蕨駅に集結した。

隣接のファミレスで昼食後、若柳君と筆者のテニス仲間でも前回は参加の鶴岡市出身で同年の三浦さんを交えて、2019 年 5 月以来 4 年振りのスタートとなった。

当日、上田は 30 度を超す真夏日、蕨も 26 度と体力を奪われる中、試合方式は 4 ゲーム先取、全員とペアを組み替えて各人が 7 試合を行う 4 時間の長丁場の大会に 75 歳前後の老体が耐えられるか心配していたが、家の中でゴロゴロしているような輩はおらず、常日頃精進していることが分かるようにコート狭しと走り回り、誰一人脱落者もなく 17 時に無事終了した。

試合結果は、実力で三浦さんの優勝、他の皆は全敗者はなく勝利をする事は出来た。次回は更に勝利数を増やせるよう日々腕を磨こうと誓ったことと思う。

今回は終了時間が夕刻の為、銭湯で汗を流すことは出来ず蕨駅近の海鮮居酒屋へ直行した。合流した隣り街在の上原昇君(2 組)を交え、乾杯もそこそこに夏日の中でのテニスで渴き切った喉にビールを一気に流し込んだ。4 年振りということも有り、ミス 65 期(?)の積もる話題、在籍時の各々の先生の常套句や思い出、部活でのトピックスなど、認知症の検査のある免許更新を心配している我が身には只々感服するばかりの盛り上がり。そう多くは飲まないだろうと高をくくっていたが、3 時間の積もる会話で当初予算を大分オーバーしたのは幹事の下手際であった。

今秋、軽井沢での再会を約し、2、3 年後の喜寿は余裕で傘寿までは続けられると頼もしい提案もある中、関東一本絞めをもって解散した。

スポーツ種目の中でもテニスが平均寿命を 9.7 年延伸するとコペンハーゲン調査結果の論文がアメリカの医学専門誌に掲載されたとのこと。傘寿まで元気にテニスが出来るように精進しましょう。

以上

(2023 年 4 月 21 日記)



【写真1】テニスコートに集合

左より 三浦、若柳、宮澤、佐藤、内堀、布施、原田、関(3秒タイマーで戻りきれず)



【写真2】懇親会にて

左より 若柳、上原(奥)、布施、原田、佐藤(前)、宮澤、内堀、関